

# ひろば大代

NO.185

大代公民館

## 第十回東京石見高山会

記念総会を終わって

会長 田中憲経

岩戸にはじまって、神武、惠比須、鐘馗、そして大蛇まで大江高山神楽社中十七人の皆さんの演じる神楽は、二時間にわたり静から動ヘクライマックスにむかつて急速に盛り上がり、その白熱の演技に観客の興奮はいやがうえにも高まってきました。

去る十一月六日開催された第十回東京石見高山会に参集した百人を越える出席者の皆さんは、このとき一樣に郷里の秋空にくっきりと響える大江高山の偉容と豊かな自然に思いをめぐらせて、熱いものの込み上げてくる心で一杯だったに違いありません。

渋谷駅に近い島根イン青山の会場ではドンツクのビデオも放映され、大代町からのご出席三十五名の方々を囲んで回顧談に花が咲くなど大変楽しい一

日となりました。

東京石見高山会は昭和六十年十月六日築地本願寺において設立総会を開催呱呱の声をあげました。以来毎年秋に大代町からもたくさんのご出席をいただいて総会と懇親会を開き、おかげさまで今日まで一回もとぎれることなく続けてこれしましたことを、本当に嬉しく思っております。会員も着実に増加した今一六五名の多数を擁するほどに充実してきました。

高山会設立の翌年には、大代町において地元の皆様のお骨折りで『都市とふるさとを結ぶ交流会』が発足、以来毎年お盆の前後に田植え囃子、神楽、盆踊り、郷土の史跡めぐりなど、帰省した大人も子供も故郷の情緒を満喫できる盛り沢山の行事でもてなしいただいてきました。

さらに平成三年には待望久しかった関西高山会が結成され、東西の高山会と大代町における交流会の三つの行事が三位一体となって展開されていることは、大田市においてもほかに例のない画期的なふるさと交流活動と評価でき、これからも一層充実、発展させて

いかなければならないと思えます。

今回記念行事として懐かしい高山神楽を上演、総会に大輪の花を添えていただきましたご郷里の皆様は厚く御礼申し上げますとともに、今後とも相互交流の実をあげるべくご支援ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

—ふる里神楽・東京で舞う—  
関西高山会事務局長 中本 弘

十一月六日関西高山会から曾根・田辺両副会長と私の三名が十周年総会に出席させていただきました。

総会の最大のイベント行事はふる里大代社中の神楽であった。この伝統文化神楽の舞披露をするのは最年長原田政明兄、中堅は木村幸司氏、そして中学生と三世代がそれぞれの衣装姿で動きの早い舞を見事に演じられた。

伝統文化を大切にし、世代間に於て確実に身を持って、引き継ごうとする心意気が胸をうった。神楽舞の一コマ一コマを解説したプログラムを作成され、それを見ながらふる里で何度か見たが、まだ見えない場面を見て新た

な感動を覚えた。

最後に御手洗副会長の挨拶の中に神楽を見て「元気が出てきた」と言っておられた通り、ふる里大代を離れて大都会東京で生活をし、長く御無沙汰した方には古里の匂いがおんぶんした神楽舞は希望と元気を与えたと思う。

ふる里の神楽を東京へと企画され、盛会にまで持って来られた会長様、役員の方々はもとより、大田市長を始め大代町の関係者に深く敬意を表します。関西高山会でも曾根副会長の挨拶の中にあったように五周年には記念行事を考えております。

最後になりましたが、東京石見高山会、伝統文化の神楽舞を披露してくれた高山神楽社中の方々の益々の活躍をお祈り致します。

東京高山会に出席して

高校一年 渡井克志

僕は今回の東京高山会総会に神楽団として参加させてもらいました。僕達はこの日のために二カ月前くらいから週一回のペースで練習してきました。

僕は最後の演目「大蛇」のスサノオ命として、これまでは二匹の大蛇でやってきて今回は四匹の大蛇でやるのでこれまででの練習よりとても多くの時間を要したので大変でした。

東京へ出発し、バスであまり寝ていないので公演がどうなるかととても心配でした。神楽が始まり、会場はとても盛り上がりいよいよ大蛇が始まりました。大蛇との対決のシーンはとても難しいのですが、より多くの練習を要した成果があつて良いものが出来たと思います。場内の出席者の方々から盛大な拍手を頂きました。

今回の総会に参加して思った事は東京高山会の方々は皆さん優しく立派な方が多く、僕たち子供を温かく迎えて頂き本当に有難うございました。

僕も今回の経験を生かし、頑張っていきたいと思えます。

東京石見高山会に参加して

中学三年 下垣貴也

初めて行った東京。何を見ても珍しく緊張してばかりでした。東京石見高

山会と聞いて、どんな事をするのかといろいろ考えました。しかし頭の中はその中で行う事になっていく神楽の事でいっぱいでした。

会が始まり、周りを見てみると皆さん大代出身の方でしたが知らない人ばかりでした。そんな状態のまま自己紹介に移りました。紹介していただいた後拍手がわきました。僕の事を知っている人がおられ、とてもうれしかったです。

神楽を披露する時が来ました。しっかりしようと思いましたが、少し失敗はしたけれど、とても好評だったので感激しました。

高山会ではとても感動する再会があり、すばらしいものだと感じました。僕達がそんな年頃になるまで東京石見高山会が続いてほしいと思いました。そしてディズニールランドへ連れて行っていただいた事はとてもいい思い出になりました。有難うございました。



一年間をふりかえって

運営委員長 日向高弘

今年も残すところあと僅かとなりました。年度当初に予定されていた大きな行事もほとんどが終わり、あとは忘年会をこなしていくための体調の維持に努めるだけであります。

ふりかえってみると、今年も色々な行事や会合がありました。「今日は○の会があるので、早く帰らにゃあいけん。」「今度の日曜は○があるけん。」「それにはつきあえん。」会社でそう言いますと、決まって同僚曰く「奥の方は大変だのう、何だかんだあって、人も少ないのに。」

確かに言われるその通りではあるが「何だかんだとあるのは、どこも一緒だけどあんたらはお声がかからんだわの。そりゃあ楽だろうけど、淋しいことだのう。」と反論するしかない私であります。

しかしながら、これは我が町も同様のことで、会合の名前は違ってもメンバーは大概一緒だというのが現実で、いつも同じ人がバタバタと忙しく動き

回っています。

でもこれじゃ良くない。皆何でも平等に分かちあいましよう。特に同輩、後輩諸君。老齢化の進む大代町だからこそ、よけいに先頭に立って頑張りましよう。何にでも参加しましよう。たまには親父さんに代わって常会に出て思うことを発言してみよう。そして叱られてみましよう。それがまず第一歩だと思えます。

会員参加の町づくり。簡単そうで実はとても難しいことです。来年はさらに多くの人と語り合い、お酒を酌み交わしたい。今年を振り返ってそんな思いで一杯の私であります。

—平成六年度—  
いきいきふるさと

文化祭を終えて

公民館



今年は六十枚のパネルを使って部会別の展示が整然とできて文字通り「いきいきふるさと」を表徴した賑やかな文化祭になりました。

第一会場は公民館。和室では特別展「豪農家の食器—茶席と会席道具」で

した。食文化の歴史の一端を食器で表わしたものです。茶席は地味に会席は主に赤色を基調として派手に仕立てました。しかしせっかく説明書を用意して居りましたが、余り利用されてなく少し残念に思いました。同室の戸棚前には高崎工房の茶盆が並び、和室入口付近には婦人会厚生部の健康測定に血圧測定機が置かれて皆さん試みに並んで居られました。

談話室はサービスの茶席、資料展示室は寿会の手芸品、なかでも裏造りの蓑は伝統の味と手の温もりを感じました。

集會室は西側の窓際のパネルに書道部会が、戸棚前のパネルには高山開発部会の写真展示とパンフレットが置かれていました。この室は大部分が中学校のバザーで、十一時頃から満席となり、男子生徒がエプロン姿で甲斐がいしく運ぶ姿がとてもよく似合い微笑ましく思いました。

集會室の前（玄関）は生産部会の「高山そば」が飛ぶように売られています。

第二会場は中学校の屋内体育館。玄

関口には婦人部会の農産物品評会、手造り食品（福神漬、しそ巻など）の販売、お役立品の販売など恰もシルクロードのバザールの様相を呈していました。

右手の第一コーナーは婦人部各支部持ち寄りの作品が所狭しと飾られており、第二コーナーは書道と生け花の展示、第三コーナーは中学校の作品展、

今年で最後になるかも知れない生徒の函画や習字、工作、そして田植囃子の写真などが満杯、なかでも目を引いたのは以前に在職された先生方の寄稿文でした。じつと読んでおられた校長先生の思いは一入であつたであろうと、その横顔をそつとカメラに収めました。

第四コーナーは幼稚園と小学校の作品展、メインテーブルには幼稚園PTAのバザーで、前夜造つた、おいしいクッキーが盛り沢山でした。

午後一時から始まったカラオケ大会は司会よろしく、その喉声よりも仮装大会と見間違ふほどの大ハッスルぶりには驚いてしまいました。

久し振りに見せてもらった大代町の文化祭は「祭」の名に相応しい盛り上

がりで六時間の所要では物足りない気がしました。

戸外はテントから立ち込める焼鳥の匂いが流れて、晩秋の午後遅くまで青年たちで賑わっていました。

参加された町民の皆さん準備に後片付けに本当にご苦労さまでした。

(W)

## 文化祭カラオケ大会

祝優勝芸能大賞受賞苦労話

黄組 四日市 鉦 昭人

連合自治会に於て今年の文化祭カラオケは「賑やかにやろう」との申し合おせに、「よしやろう」と勇ましく返事をす。私の心の中も是非自治会から出てほしいし、出したい。の一心で逃げも隠れも出来ない道を作り、ここから重荷を背負う山登りとなりました。

出場者の募集に隣の短い仕事帰りに今日は一軒「私しやダメ」また今日は三軒「私しやダメ」昨日と同じで七軒もの家へ迷い込み、外は笑顔でも心の内は木枯らしでした。寝ても寝られず昼の思いが夢には出るし、文化祭は日

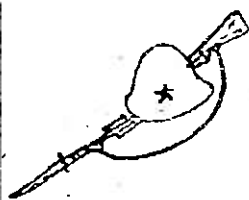
一日と迫っては来るし、人に言えない苦労をしみじみ味わいました。

落ちるまんまに谷底へ、そこで待つておられた救いの神様。「それほど本気になって頑張っているなら若い者達が本気になつて頑張つてやろう」と夕食後に電話をもらい、その時のホツとした嬉しかった気持ち表現すれば、「へ親に抱かれて寝る赤児」のようでした。

この一人の呼び声が十人力となり、昼間は仕事に専念し疲れも見せずに夜集つて企画されたのが「祭」でした。

振返つてみますと「私はやれん、私しややれん」と断られたのが、ワッシヨイワッシヨイの祭の歌と踊りのご縁になりました。練習に練習を重ねて実つた結果が黄組芸能大賞受賞になり、大変喜びました。また来年も頑張りますよう。

## 戦時体験記



戦犯七士の墓(由来)

本郷 増田長之助

昭和二十年八月十五日終戦と共に大東亜戦争の責を問う米、中、英、ソ、露、加、仏、蘭、新、印、比の十一カ国の極東国際軍事裁判が開かれ、票決によって絞首刑が決定した。

東条英機(元総理大臣) 松井石根(元陸軍大将) 土肥原賢二(元陸軍大将) 武藤 章(元陸軍中將) 坂垣征四郎(元陸軍大将) 木村兵太郎(元陸軍大将) 広田弘毅(元総理大臣) 以上 七名の方々の絞首刑後の状況、概略を記してみます。

絞首刑の判決が言い渡されたのは昭和二十三年十一月十二日である。

各担当の弁護士が遺体の家族引き渡しをマッカーサー指令部を訪ね懇願したが、了解を得ることが出来ず、このままでは遺体も遺骨も家族に渡されないことが明白になり、遂に骨だけでも家族に何とか渡したいとの一念により、数名の有志で冒險的な計画がなされ、その実行に当って綿密な計画が立てられた。それには先ず、刑の執行日を速やかに探知しなければと極東裁判米國

検事に近づき、七人の方々の刑の執行日が、クリスマス前の日、昭和二十三年十二月二十三日であり、火葬場も推察することが出来、火葬場長の買収にも成功した。

しかし二十三日の当日は米軍の監視が嚴重で果たすことが出来ず、翌二十四日はクリスマスマススィブに浮かれて見張りが手薄になることを知り、木枯らしの吹き荒ぶ夜半、黒装束に身を固めた有志の方々が火葬場長の案内で目的地に近ずいた。穴は暗くても灯火と物音は禁物、見張りを気にして灰をかき集める作業は、想像以上に大仕事であった。

こうして取得した遺骨は、一時人目を避けて伊豆の山中に安置されていたが、時の流れと共に遺族を始め各方面の有志の方々の尽力により、日本の中心地三河湾固定公園三ヶ根山頂に墓碑が建立され、遺族及び関係者が列席して墓前祭が行われ、今では一般の人々や観光客も花を手向けて供養する人の数も増し、三ヶ根山スカイパークの名所としてクローズアップされてきた現在であると言う。

「東条英機獄中からの手紙」と題して嫡孫の主婦の方が最近号の文芸春秋に掲載されている。東条英機からの家族に当たった遺書の中に「百年の後の名を期せいづれ世界の識者の批判に依って日本の真意を了解される時代もあるだろう。」と家族を励ましている。

戦後百年を待たずに僅か五十年の間に「東条家にも新しい時代の波がやってきた。」と評論する識者もいて、「長い歳月中傷や誤解で沈黙を守り続けた胸のつかえが下りるのを感じる。」とも書いている。

若い頃は何度も心に傷ついたことがある。弟が小学校一年に入學した時、担任の女教師が「東条君のおじいさんは泥棒よりも、悪いことをしてきた人です。」と弟をクラスの友達に紹介した。「おじいさんは何をした人なの?」と泣く弟に「おじいさんは立派な方よ。東条家に生まれて来た誇りを持って生きて。」との母の言葉は戦後五十年を生き抜いた支えとなった。

父も会社から辞職勧告を受け退職したが、一旦社会から弾かれた父は遂に社会的に恵まれることなく早すぎる生

涯を閉じた。

「戦争犠牲者の御家族が居られる間は静かにして。」と母や、叔父、兄の考えから沈黙を守り、世間の冷たい目に耐え、ひっそりと身を寄せ合って生きて来た。

八月十五日終戦の日から処刑されるまで、祖父英機から沢山の情愛こもる手紙が届いたと種々書かれてあるが省略する。とにかく東条家の遺族の方、大変な御苦労なされたようですが、他の戦犯の方々の御遺族も同様の御苦労をなさったものと推察されます。戦後五十年、処刑された七人の方々の御遺族にも漸く明るい光がさして来たのではないのでしょうか。

書き初め大会への

作品募集

大代公民館

お正月に公民館で書き初め大会を開催致します。題材と様式は自由で、どなたでも応募できます。振るってご参加下さい。

提出切日 一月十三日

展示日 一月十七日～三十一日



\*\*\*  
\* 十二月の行事予定 \*  
\*\*\*

◆ 十一日(日) 福祉弁当

◆ 十七日(土) 子供クリスマス会

午後二時から大代公民館でちよっと

早いクリスマス会を案じよう!

◆ 十八日(日) 婦人会役員会

平成七年一月行事予定

◆ 一日(日) 元旦マラソン

朝六時から

集合場所 石清水八幡宮

老いも若きも走ってみませんか。

◆ 一日(日) 新年挨拶交換会

午前十時から

会費 二百円(当日)

皆さんの参加をお待ちして居ります。

★—★おしらせ★—★

◎公民館より

大江高山神楽団様

金一封の御厚志をいただきました。

厚く御礼申し上げます。

◎社協大代支部より

四日市 下垣幸夫様

香典返しに替えて金一封の御厚志を

頂きました。厚く御礼申し上げます。

大代幼稚園母の会様

金一封の御厚志をいただきました。

厚く御礼申し上げます。

今年もあと僅かになりました。皆様御身体に気をつけられて、よいお年をお迎え下さい。

